

知床世界自然遺産登録 20 周年事業 「世界遺産と地域」実施要綱案

1. 企画趣旨

知床は 2005 年 7 月 17 日に日本で 3 カ所目の世界自然遺産に登録された。このことは知床世界自然遺産の管理機関である国(環境省・林野庁)と北海道が知床の自然環境を世界の宝として後世に残すために大きな決断をしたことを意味する。

また、知床における世界遺産のガバナンスは、従来にない枠組みを取り入れることとなった。その代表が、科学的な知見に基づき陸域と海域の統合的な管理に必要な助言を行う科学委員会と、地域コミュニティの参画と合意のための地域連絡会議である。常設で設置されたこれらの枠組みに、地元自治体である斜里町と羅臼町に加え、遺産地域で経済活動や生活をする漁業者や観光事業者、民間団体等も参画し、地域的な課題について対応する体制が整えられていった。こうしたモデルは「知床方式」とも呼ばれ、わが国の世界自然遺産管理のスタンダードとして定着した。

遺産登録から 20 年が経過し、こうした枠組みは安定し、その成果や実績も見える化できる段階に達した。一方、自然と社会の変化を見据え、新たな課題への対応も求められている。地域の人口減少が加速するなか、自然保護区が地域経済やコミュニティにどのような貢献すべきなのか。ネイチャーポジティブが社会目標として注目され、自然保護区概念が拡大するなか、世界自然遺産の価値と経験をどう活かすのか。不確実で将来予測が困難な自然と社会に対し、科学者と地域はどう向き合うべきなのか。

登録 20 年の節目にこの間の変化と到達点について時間軸を踏まえて俯瞰するとともに知床での経験を振り返り、ローカルとグローバルの両面においてこれからの世界自然遺産に期待される役割を議論したい。

2. 経過

標題の事業について提案・報告・協議をとおして概ね了解を得て進めてきた

2025.3.5	2024 年度第 2 回科学委員会
2025.3.24	2024 年度第 1 回地域連絡会議
2025.4.16	知床世界遺産地域 20 周年記念実行委員会
2025.6.27	2025 年度第 1 回エゾシカワーキング会議
2025.7.8	知床世界遺産地域 20 周年記念実行委員会
2025.7.15	2025 年度第 1 回海域 WG 会議
2025.7.31	2025 年度第 1 回ヒグマ WG 会議
2025.8.1	2025 年度第 1 回エコツアーリズム WG 会議
2025.8.5	2025 年度第 1 回河川工作物 AP 会議

3. 実施体制

主催／ 公益財団法人 知床財団

共催／ 知床国立公園 60 周年・世界遺産 20 周年記念事業実行委員会

(環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道・斜里町・羅臼町)

後援／知床世界自然遺産地域連絡会議・知床世界自然遺産地域科学委員会

4. 役割分担

(1) 環境省

- ・知床の登録から今日に至る総括的な経過や記録に関するアドバイスとまとめ
- ・科学委員会に連動する「総括シンポジウム」に関する経費の分担

(2) 林野庁・北海道

- ・各ワーキングにおける経過や記録に関するアドバイスとまとめ
- ・事務局を担当する会議等における調整、職員の協力等

(3) 羅臼町・斜里町

- ・地域での取組みに係る経過や記録に関するアドバイスとまとめ
- ・地域連絡会議に連動する「知床シンポジウム」に関連する経費の分担

(4) 知床財団

- ・企画調整、広報
- ・上記に含まれない経費の分担

(5) 20 周年実行委員会

- ・シンポジウムにおける運営補助や広報支援

5. 企画の概要

(1) 知床シンポジウムの開催

- テ ー マ 「世界自然遺産と地域のあゆみ-知床世界自然遺産の20年-」
- 概 要 地域連絡会議と連動した地元向けシンポジウムを開催
遺産登録からの20年の変化や課題、到達点を地域の視点から明らかにする
- 実施時期 2026年11月13日(木) 13:00~16:00
*同日 10:00~12:00 に知床世界自然遺産 地域連絡会議を実施
- 開催場所 斜里町公民館ゆめホール知床(オンライン配信を予定)

(2) 総括シンポジウムの実施

- テ ー マ 「知床世界自然遺産と地域のこれから」
- 概 要 総括的なまとめの場として、公開シンポジウムを開催。
地元シンポジウムの結果を受け、今後の展望と指針を発信する場とする
- 実施時期 2026年2月~3月ごろ
- 開催場所 札幌市

(3) 20周年記念誌の発行(2026年度発行予定)

構成(案)

- (1) 地域にとっての世界遺産(地域関係者によるレポート)
- (2) 科学委員会のあゆみとこれから(委員長・WG座長によるレポート)
- (3) 個別分野の取組みとこれから(有識者・WG委員・地域関係者へのアンケート)
- (4) 行政機関の取組みと展望(各行政機関による振り返りと今後)
- (5) シンポジウム記録
- (6) 資料編(知床白書等の活用)

発行時期 2026年秋ごろ

6. 知床シンポジウム（地元開催）の実施概要

実施時期： 2025 年 11 月 13 日（木） 13:00～16:00

開催場所： 斜里町公民館ゆめホール知床 公民館ホール

*Web によるライブ配信を予定

参集者： 地域連絡会議出席者、観光関係者、漁業者、ガイド、地域住民、関係職員

*科学委関係者については調整中

タイムライン：

時間	内 容	登壇者
10:30～12:00	地域連絡会議	
	昼食	
13:00～13:10	開会挨拶	斜里町長 山内 浩彰氏
13:10～14:30	講演・話題提供	
13:10～13:30 (20 分)	発表 1 知床世界遺産 20 年のあゆみと 保全管理の取組み	北海道 自然環境局 (発表者調整中)
13:30～14:00 (30 分)	発表 2 (仮)知床観光の 20 年	一般社団法人 知床しゃり 専務理事 河井 謙
14:00～14:30 (30 分)	発表 3 (仮)地域産業としての漁業とその変化	羅臼漁業協同組合 (発表者調整中)
14:30～14:45	休憩	
14:45～15:50 (65 分)	パネルディスカッション 世界遺産と地域の 20 年-これまでとこれから-	コーディネーター: 村田 良介(知床財団) パネリスト: 湊屋 稔(羅臼町 町長) 増田 泰(斜里町 副町長) 河井 謙(一社 知床しゃり) 羅臼関係者(羅臼漁組) コメンテーター: 科学委委員など(調整中)
15:50～16:00	閉会挨拶	湊屋 稔 (羅臼町 町長)

7. 総括シンポジウムの実施要領

実施時期： 2026 年2月～3月ごろ(第2回科学委員会の翌日)
 開催場所： 札幌市
 会場： かでる 27、L プラザなど(科学委員会と同会場)
 参加者： 地域連絡会議関係者、科学委員会委員(WG)、関係職員、両町長、
 羅臼会・斜里会、100 平米運動支部、遺産地域関係者
 70-80 名？ Web での live 中継等の活用も検討

タイムライン：

時間配分	内 容	氏 名	備考
前日	科学委員会／終了後進行など関係者確認		
9:30～9:45	開会 (知事の挨拶？)	北海道	
9:45～10:05 10:05～10:45 10:45～11:25 昼食	発表 1 「世界遺産 20 年のあゆみ」 発表 2 「仮/世界遺産登録による知床観光の変化」 発表 3 「仮/世界遺産登録による漁業の変化」	環境省 斜里側 羅臼側	
13:00～13:40 13:40～15:30	基調講演 シンポジウム (各 WG 報告含む・統一テーマは？) ・各座長？ ・コーディネート	座長？ 座長？	
15:30～15:40	閉会		

* 他の世界遺産地域からの招へいが可能になれば午前に「発表 4」として入れるかシンポジウムに参加。

8. 全体スケジュール（別紙1参照）

（1）上半期の科学委・WG等を通じた「振り返り」の実施

20年近く継続してきた世界遺産の保護管理に関する議論について、議事や事業の概要を整理し以下のような観点で振り返る。

1. 知床の自然環境とその変化をどのように把握し、認識・評価してきたか。
2. IUCN 勧告や地域課題に対し、どのような施策や取り組み、助言を行ってきたか。
3. 特に、遺産登録前から現在に至るまでの各WGにおける主要課題や議論テーマについて中期（3年～5年）的なスパンでその変遷を把握し、これらへの対応や施策について振り返りたい。

これらを踏まえ、シンポジウムでは以下のようなテーマについて議論したい。

- ・ 各WG等での取り組みにおいて、特に画期となった出来事、判断、施策等はなにか。
- ・ これらが、学術的な観点または環境政策的な観点としてどのような意義があったか。
- ・ 自然保護区、世界遺産の管理モデルとして科学委/WGの取り組みをどう評価するか。

さらに、次の10年をターゲットとして、以下のような観点でビジョンや展望をまとめる。

- ・ 知床WNHSの、自然環境/社会環境における脅威や共通課題はなにか。
- ・ これらについて、各WGで重点的に取り組むべき課題はなにか。また、科学委全体としての共通課題はなにか。
- ・ 知床WNHSのガバナンスにおいて、科学委員会/WGの枠組みや役割はどのようにあるべきか。
- ・ 知床での経験や管理モデルを他の世界遺産や自然保護区に活かし、ネイチャーポジティブに貢献しうるか。

（2）第1回WG/科学委での議論と資料

1. 知床科学委・地域連絡会議の設立と役割、議論の枠組みとその変遷（2004-2024）
2. 各会議での議論テーマ、議事概要、実施事業のまとめ
3. 科学委員会（本体）での議論経緯やIUCN等の国際機関とのやりとり

（3）原稿依頼

- ・ 第1回の終了後に座長に原稿を依頼。主題は前述の通り、各WGの取り組みの評価と今後のあり方についての総括的な内容を想定。
- ・ 各位委員に対しては、A4版1～2ページ程度のコメントやアンケートを依頼。
- ・ 具体的な分量、様式については追ってご連絡。
- ・ これらを取りまとめ、第2回WGで進捗を共有するとともにシンポジウムのテーマとし、記念誌にまとめる。

(別紙)

